

はじめに

思い起こせば 2012 年 4 月に「西いぶり在宅ケア連絡会」の前身となる「室蘭登別在宅ケア連絡会」を立ち上げてから 4 年余りが経とうとしている。設立時の当会の目標を改めて見直してみると、

- ・在宅ケアに関わる多職種や関係者と顔の見える関係をつくる
- ・在宅ケア推進にあたり、関係者・住民の知識の増進をはかり、相談できる場をつくる
- ・在宅ケアを広め、住民のニーズをくみ取る場をつくる

の 3 本柱を軸に、幹事を中心にして定例会班、地域プロジェクト班、広報班、市民フォーラム班とそれぞれが役割を担いながら活動してきた 1 年間であった。基本的な活動の場である定例会は、徐々に顔の見える関係ができてきたことを踏まえて、“幕の内弁当”のように、幅広いテーマを取り上げて、ケアに関わる視野を広げることを目的として毎月 1 回継続して開催できた。また市民フォーラムは好評だった寸劇を交えた形式が 3 年間の集大成を終え、今年度は新たな形としてショッピングモールの一角で在宅ケアの啓発を行う企画を実施し盛況であった。

西胆振としての地域医療構想も進み、具体的な在宅ケアの受け入れ人数などの状況も見えてきている中、当会の地域での役割は今後、一層大きくなることが予想される。毎年、このような形で報告書を提出できることに感謝するとともに、引き続き時代のニーズに適切に答えながら活動を持続していきたい。

西いぶり在宅ケア連絡会

会長 草場鉄周

副会長 佐藤弘太郎

月	形式(参加実績)	テーマ・内容
4月	講演会 (※1) (90名) 室蘭	「介護保険改正に関すること」 介護保険改正に関する講演
5月	事例検討 ディスカッション (74名) 室蘭	「介護職との“れんけい”～訪問介護の現場から～」 今回は、現場で利用者さんと患者さんと一番多く触れ合っているであろう介護職へスポットを当て、様々な仕事の形式や現場での実践、サービスを提供する中で の想いを知り、介護職に対する理解を深めたいと考えています。そして、介護職の方々と連携を取る上での課題やその対応策などを話し合い、お互いさらに一歩 近づき合える関係を目指します！
6月	事例検討 ディスカッション (56名) 室蘭	「介護者が語る認知症ケア」 認知症の方と共に悩み・考えながら支えることができているだろうか？人が生きる姿を応援できているのだろうか？ 日頃の自らの関わり方や支援の方法などを振り返り、気づきをもって帰れる。そんな場にしたいと考えています！
7月	講演会 (※2) (67名) 室蘭	「認知症になっても、暮らせるまちづくり」～認知症フレンドシップクラブの取組みから～ 井出先生が理事長を務める、認知症フレンドシップクラブの活動から、認知症でも暮らせるまちとはどんなまちか、毎年大きな反響と広がりを見せているRun-To moについてなどご講演いただきます。自分の地域で認知症でも暮らせるまちづくりや、認知症の人を応援するために何ができるかなど、参考になればと考えて います。
8月	事例検討 ディスカッション (41名) 室蘭	「援助職のためのメンタルヘルス」～燃え尽きちまいませんか？～ ストレスフルだと言われる対人援助職の現場、その中で働くための「ひとりひとりの考え方を少し変えてみると楽になる」「職場環境が変われば楽になる」などの 話題を提供し、新人さんにもベテランさんにも共有できる内容にしたいと思っています。日々支援している対象者も「ひと」ですが、その支援者自身も「ひと」であ り、悩みながら、時には失敗して成長します。うまく自分の感情につきあえるように少し意識を変えてみながら、対人援助職として日々モチベーションを高く保って 働くためのヒント、を一緒に考えていきましょう。
9月	事例検討 ディスカッション (48名) 室蘭	「大丈夫！大丈夫？地域包括ケア」 平成27年4月に走り出した地域包括ケアシステム、その実態はどうなっているのでしょうか？半年を迎えた現在の状況について、地域包括支援センターからも 情報提供をしていただき、地域包括ケアによって課題解決に繋がった、または機能しなかった、などの話題から、多職種が地域包括ケアシステムの今後を考える 機会にしたい
10月	事例検討 ディスカッション (64名) 伊達	「みんなで創ろう、地域包括ケア！～地域包括ケアのために何が必要か？～」 最期まで住みたい場所で安心して生活できる地域にしたい。その実現のために、それぞれの立場で何ができるか、この地域に何が必要なのか。また、医療・介 護・福祉に関わる私たちは、どう繋がり、どう行動すれば、そこに近づけるか？地域での事例を通じて考えていきたいと思います。
11月	市民フォーラム (※3) 室蘭(モルエ中島) (一般市民 延べ326名(各ブース合計))	西いぶりが在宅ケアフェスティバル 私たちは学びながら地域の在宅ケアを推進してゆくことを目的とした団体です。この度、在宅ケアについて一般市民の皆様にご覧いただく機会として『楽しみな がら』『誰でも』『気軽に』参加できる『内容でのフェスティバルを企画しました。皆さんとともに知識を学び、理解を広めたいと考えております。どうぞお気軽にご参加 ください！
12月	事例検討 ディスカッション (36名) 室蘭	「あなたならどうする？助け愛たい困難事例」 事例やディスカッションを通じて、自分たちの役割や出来る事を知り、どのように多職種で連携していくと、より良いサービスを提供出来るのか考えてみましょう！
1月	講演 (※4) (46名) 室蘭	「地域のチカラを生かすチームづくり」 小児在宅医療に取り組んでいる「生涯クリニックさっぽろ」の土島先生をお招きしての講演会です。 地域で暮らす人々の環境は様々ですが、「自律」を目指し人々が健康になるために、コミュニティはいかにそれぞれが役割を持てるようになるか。医療・介護・福 祉だけではなくチーム力を環境に準じ、又は環境を変化させ、一人ひとりがそれぞれのチカラを引き出す視点を持つ事のお話です！
2月	事例検討 ディスカッション (53名) 室蘭	「コトバノチカラ～連携するための声ってなんだろう」 西いぶりが在宅ケア連絡会では2月定例会テーマを考え、今までの積み重ねから他職種連携を真に行うためには「言葉」について考えてみようという結論に達しま した。具体的なやり取りの中で、自分の言葉で話しているか、もしかしたら想いとは別に、現状を話すのみに止まっているか、もしかしたら想いを発言すること で、大きなアクションが起こるかもしれない。言われて嬉しい言葉、やる気になる言葉を発しているだろうか、無意識の中で逆の言葉を利用者や仲間に話してい ないだろうか。相手と同じ目線に立って話しているか。そのような話し合いの中から、利用者とかかわり、他職種連携でのコミュニケーションのコツ、言葉で伝える 想いの共有を、どのようにしていくか、答えはなかなか見つからないと思いますが、参加者が気づききっかけの定例会にして行こうと考えています。
3月	講演 (※5) (54名) 室蘭	「地域包括ケアと住まい、シニアの社会参加」 地域包括ケアが実は住まい包括ケアになってきていること、今後増えていくであろう在宅(住まい含む)看取りまでの問題にどう対応していくのか、また、元気高 齢者の社会参加など

※1 講師：一般社団法人北海道介護専門員協会会長 村山 文彦 氏

※2 講師：放送大学教養学部 教授・NPO法人認知症フレンドシップクラブ 理事長 井出 訓 氏

※3 主催：西胆振地域在宅医療連携推進協議会

※4 講師：生涯医療クリニックさっぽろ 院長 土島 智幸 先生

※5 講師：特定非営利活動法人シーズネット 理事長 奥田 龍人 氏

平成27年度 定例会 職種別 参加者数

※11月は在宅ケアフェスティバルにつき除外

ラベル	職種	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	12月	1月	2月	3月
1	①. 医師	4	3	1	3	2	2	3		4	2	1
2	②. 歯科医師	1	0	0	1			0		0	0	0
3	③. 保健師	6	2	4	7	3	4	1	1	0	3	2
4	④. 看護師	6	8	6	6	3	4	14	3	5	2	4
5	⑤. ケアマネジャー	23	18	18	16	9	11	22	12	12	18	17
6	⑥. 社会福祉士	4	0	3	3	2	3	1	1	2	3	7
7	⑦. 栄養士	1	1					0		2	0	0
8	⑧. PT	9	3	1	3	2	4	3	1	5	2	3
9	⑨. OT	6	4	2		1	2	2		1	1	1
10	⑩. ST	3	1	1			2	0	2	1	0	0
11	⑪. MSW	7	7	5	3	3	4	4		3	5	1
12	⑫. PSW	1	0	1	5	7		0		3	4	4
13	⑬. 薬剤師	6	6	5	3	3	4	3	2	2	0	6
14	⑭. 歯科衛生士	1	1	2	2	1	2	1	6		1	0
15	⑮. 介護福祉士	5	13	4	7	2	1	4	1		2	0
16	⑯. ヘルパー	0	5	1	1			1	4		1	0
17	⑰. 生活相談員	1		0							3	1
18	⑱. 柔道整復師	1		0	1						0	0
19	⑲. 福祉用具	0		0							0	0
20	⑳. 医事関係者	1			1		2				3	0
21	㉑. その他()	4	2	2	5	3	3	5	3	6	3	7
合計		90	74	56	67	41	48	64	36	46	53	54

第33回 西いぶり在宅ケア連絡会

テーマ

「介護保険改正に関すること」

日時:4月20日(月) 18:30~20:30

受付:18:00~

会場:むろらん広域センタービル 3階A・B会議室

室蘭市海岸町1丁目4番1号 0143-24-9834

参加費:500円(軽食代含む)

<内 容>

18:30~ 開会 定例会説明 挨拶 等

18:40~ 介護保険改正に関する講演

20:30 閉会

<講師> 村山 文彦 氏

1961年 室蘭市生まれ

1983年 道都大学社会福祉学部卒業

財団法人北海道難病連事務局職員を経て、

社会福祉法人三草会にて在宅介護支援センター、地域包括支援センター長

社会福祉士・主任介護支援専門員

認定社会福祉士制度経過措置期間における登録スーパーバイザー



公職

一般社団法人北海道介護専門員協会会長

一般社団法人日本介護支援専門員協会理事

一般社団法人札幌市介護支援専門員連絡協議会相談役

全国地域包括・在宅介護支援センター協議会研修専門委員

【後援団体】

室蘭市医師会、胆振西部医師会、室蘭歯科医師会、北海道看護協会室蘭支部、北海道薬剤師会室蘭支部、西胆振訪問看護者連絡会、北海道栄養士会室蘭支部、北海道歯科衛生士会室蘭支部、室蘭市地域包括支援センター、北海道医療ソーシャルワーカー協会日胆支部、室蘭・登別訪問リハビリテーション連絡会、登別市地域包括支援センター、のぼりべつケアマネ連絡会、伊達市地域包括支援センター、伊達市介護支援専門員連絡会、室蘭市介護保険サービス事業所連絡協議会（室蘭市居宅介護支援事業所専門部会、居宅介護サービス事業所専門部会）、北海道介護福祉士会日胆支部

＜担当幹事＞

高嶺活哉

＜タイムライン＞

18：30～ 開会 定例会説明 等

18：40～ 改正介護保険制度のポイントについての講演

講師：村山 文彦 氏

1983 年 道都大学社会福祉学部卒業

財団法人北海道難病連事務局職員を経て、

社会福祉法人三草会にて在宅介護支援センター、地域包括支援センター長

社会福祉士・主任介護支援専門員

認定社会福祉士制度経過措置期間における登録スーパーバイザー

公職

一般社団法人北海道介護専門員協会会長

一般社団法人日本介護支援専門員協会理事

一般社団法人札幌市介護支援専門員連絡協議会相談役

全国地域包括・在宅介護支援センター協議会研修専門委員

質疑応答 等

20：30 アンケート回収 閉会

＜担当幹事からの総括＞

平成 27 年 4 月 20 日に開催された第 33 回定例会では、「介護保険改正に関する事」をテーマに、一般社団法人北海道介護支援専門員協会会長の村山文彦先生をお招きして、改正介護保険制度のポイントについてのご講演をして頂きました。

村山先生からは、介護保険・報酬改定と介護支援専門員に求められる事として、介護支援専門員の現状などを絡めたお話しをして頂きました。話の中では、ケアマネが抱える課題や地域包括ケアシステム構築の為のマネジメントの重要性。そして、ケアマネジメントのあり方や質の向上についてなど、ケアマネ以外の職種にも分かり易くご説明頂きました。

介護報酬改定については、サービス毎の変更点を厚労省の意図も含めながら、とても分かり易くご講演頂きました。今後の課題として挙げられた事では、ケアプランの適正化に向けた対応策に「ケアプラン点検の強化」、「運営基準の再徹底」、「サービス付き高齢者向け住宅等の居住者に係わるケアプランなどの実態調査」等。地域包括ケアシステム構築に向けた着実な対応として、「質の高い介護サービスの安定的な供給」、「人材の確保」、「医療と介護の連携・機能分担」等を課題として伝えて頂きました。今回の改定から、我が国が抱える社会保障の問題、そして、在宅ケアに関わる職種として我々が考えていかななくてはならない課題を提示して頂いた講演会となりました。今回の定例会を通して、制度改定の内容はもちろんですが、そこに含まれているこれからの方向性をしっかりと理解して、日々の仕事や活動に活かして行きたいと考えさせられました。

第34回 西いぶり在宅ケア連絡会

テーマ

「介護職との“れんけい” ～訪問介護の現場から～」

日 時:5月18日(月) 18:30～20:30

受 付:18:00～

会 場:むろらん広域センタービル 3階A・B会議室
室蘭市海岸町1丁目4番1号 0143-24-9834

参加費:500円(軽食代含む)

<内 容>

18:30～ 連絡会説明・参加者自己紹介

18:40～ 介護福祉士について

19:00～ 訪問介護の現場から 事例を通して

19:20～ グループワークの説明

19:25～ グループワーク

20:15～ 共有・まとめ、アンケート・意見回収

20:30 閉会



今月のポイント！

今回は、現場で利用者さんや患者さんと一番多く触れ合っているであろう介護職へスポットを当て、様々な仕事の形式や現場での実践、サービスを提供する中での想いを知り、介護職に対する理解を深めたいと考えています。そして、介護職の方々と連携を取る上での課題やその対応策などを話し合い、お互いさらに一步近づき合える関係を目指します！

【後援団体】

室蘭市医師会、胆振西部医師会、室蘭歯科医師会、北海道看護協会室蘭支部、北海道薬剤師会室蘭支部、西胆振訪問看護者連絡会、北海道栄養士会室蘭支部、北海道歯科衛生士会室蘭支部、室蘭市地域包括支援センター、北海道医療ソーシャルワーカー協会日胆支部、室蘭・登別訪問リハビリテーション連絡会、登別市地域包括支援センター、のぼりべつケアマネ連絡会、伊達市地域包括支援センター、伊達市介護支援専門員連絡会、室蘭市介護保険サービス事業所連絡協議会（室蘭市居宅介護支援事業所専門部会、居宅介護サービス事業所専門部会）、北海道介護福祉士会日胆支部

＜担当幹事＞

成田 元気 小倉正治

＜定例会のTake Home Message＞

「介護職・訪問介護の仕事や思いを知る」「より良い連携方法を見つけてもらう」

＜タイムライン＞

- 18：30～ 連絡会趣旨説明 参加者自己紹介
- 18：40～ 介護福祉士について
- 19：00～ 訪問介護の現場から 事例を通して
- 19：20～ グループワークの説明
- 19：25～ グループワーク
- 20：15～ 共有・まとめ、アンケート・意見回収
- 20：30 閉会

＜担当幹事からの総括＞

今回は医療・福祉等の現場の中で、利用者や患者と一番多く触れ合っている介護職へスポットを当て、介護職の現状や様々な仕事の形式、今後の取り組み等の紹介と訪問介護に従事しているスタッフからの事例紹介、サービス提供に対する思いについて発表を行った。参加者のターゲットとしては、普段の定例会の中で参加率の低い介護職の参加に重点を置き、各事業所への直接的な周知を行った結果、通常よりも多くの介護福祉士・ヘルパーの参加があった。この度の定例会の目的である介護職の参加の達成状況としては良好な結果であったと言える。

グループワークの中では、介護職との連携は不十分であるとの意見が幾つも出ていたが、そこには様々な原因（要素）が話し合いの中で出ていた。そして、今後の介護職との連携の必要性については、大切との意見もあったが、それぞれの専門性があるなか、ケアマネが情報の集約や発信を行うことが大切との意見もあり、専門性を活かしつつそれを誰が、どこに、誰に対して、どのような情報を伝達すべきなのか、一スタッフとしてだけではなく、事業所単位で考えていく必要性も感じた。

第35回 西いぶり在宅ケア連絡会

テーマ

「介護者が語る認知症ケア」

日 時:6月15日(月) 18:30~20:30

受 付:18:00~

会 場:むろらん広域センタービル 3階B・C会議室
室蘭市海岸町1丁目4番1号 0143-24-9834

参加費:500円(軽食代含む)

<内 容>

18:30~ 連絡会説明・参加者自己紹介

18:45~ 事例紹介

18:50~ ロールプレイ

19:10~ シンポジスト発表

19:40~ グループワーク

20:25~ 共有・まとめ、アンケート・意見回収

20:30 閉会



今月のポイント！

認知症の方と共に悩み・考えながら支えることができているだろうか？

人が生きる姿を応援できているのだろうか？

日頃の自らの関わり方や支援の方法などを振り返り、
気づきをもって帰れる。そんな場にしたいと考えています！

【後援団体】

室蘭市医師会、胆振西部医師会、室蘭歯科医師会、北海道看護協会室蘭支部、北海道薬剤師会室蘭支部、西胆振訪問看護師連絡会、北海道栄養士会室蘭支部、北海道歯科衛生士会室蘭支部、室蘭市地域包括支援センター、北海道医療ソーシャルワーカー協会日胆支部、室蘭・登別訪問リハビリテーション連絡会、登別市地域包括支援センター、のぼりべつケアマネ連絡会、伊達市地域包括支援センター、伊達市介護支援専門員連絡会、室蘭市介護保険サービス事業所連絡協議会（室蘭市居宅介護支援事業所専門部会、居宅介護サービス事業所専門部会）、北海道介護福祉士会日胆支部

<担当幹事>

大杉 直美 高嶺 克哉 三浦 守

<定例会のTake Home Message>

「振り返って気づきを持って帰れる。」

<タイムライン>

18:30～ 連絡会趣旨説明 参加者自己紹介 本日の趣旨説明

18:45～ シンポジストの紹介

○佐々木 明さん 平成22年より奥様が認知症発症、主介護者

○前田節子さん 認知症を支える家族の集い・室蘭いがぐりの会代表
毎月開催されている「いがぐりの会」で介護者の皆様と語り合い、
認知症ケアを支えている

18:50～ ロールプレイ:「トイレに行きたくない。」

伊達 蘭子:地域包括支援センターことぶき:日沼順子

伊達 登:地域包括支援センター憩:工藤 貴志

19:10～ シンポジスト発表

19:40～ グループディスカッション

20:00～ 会場とシンポジストのセッション

20:25～ 共有・まとめ、アンケート・意見回収

20:30 閉会

<担当幹事からの総括>

日頃の仕事の中で認知症の方との関わりはとても重要である。言葉の掛け方一つでケアが上手くいったり、行かなかったりと皆四苦八苦している事が多い。

今回の定例会では、認知症の方と関わる上でよくある光景をまずはロールプレイを見て頂き、その後、現在認知症の家族を介護している佐々木さんと、いが栗の会から代表して前田さんから体験談などを話して頂いた。

上記の内容より、実際現場では上手く行っているが、現場からスタッフが居なくなり、家族だけとなった場合、違う一面を見せている事がある。

参加して頂いた方へ、自分達が居なくなった後、何故変わるのだろうか？
現場に居た時何故上手く行ったのだろうか？ どちらが本当の顔なんだろうか？

と言う事を持ち帰って頂き、明日からの仕事に生かせる事を目的に行った。

今回ロールプレイ・シンポジウム・会場とのセッション等を行い、普段は特定の人しか聞けないような、認知症に関わる人達の貴重な意見が聞くことが出来たのが一番大きい。グループワークの結果から、参加者からはそれぞれ思うことがあり、今回のテーマでもある気づきを持って帰るということに関して、皆さんそれぞれの思いを持って帰って貰えた。これが今回の一番の収穫と思える。

第36回 西いぶり在宅ケア連絡会

講演会

「認知症になっても、暮らせるまちづくり」 ～認知症フレンドシップクラブの取り組みから～

日 時: 7月21日(火) 18:30～20:30

受 付: 18:00～

会 場: むろらん広域センタービル 3階B・C会議室
室蘭市海岸町1丁目4番1号 0143-24-9834

参加費: 500円(軽食代含む)

<内 容>

18:30～ 連絡会説明

18:35～ 講師紹介

井出 訓 氏 放送大学教養学部 教授

NPO法人認知症フレンドシップクラブ 理事長

18:40～ 講演

20:20～ 質疑応答

20:30 閉会 アンケート回収



今月のポイント！

井出先生が理事長を務める、認知症フレンドシップクラブの活動から、認知症でも暮らせるまちとはどんなまちか、毎年大きな反響と広がりを見せているRun-Tomoについてなどご講演いただきます。自分の地域で認知症でも暮らせるまちづくりや、認知症の人を応援するために何ができるかなど、参考になればと考えています。

【後援団体】

室蘭市医師会、胆振西部医師会、室蘭歯科医師会、北海道看護協会室蘭支部、北海道薬剤師会室蘭支部、西胆振訪問看護師連絡会、北海道栄養士会室蘭支部、北海道歯科衛生士会室蘭支部、室蘭市地域包括支援センター、北海道医療ソーシャルワーカー協会日胆支部、室蘭・登別訪問リハビリテーション連絡会、登別市地域包括支援センター、のぼりべつケアマネ連絡会、伊達市地域包括支援センター、伊達市介護支援専門員連絡会、室蘭市介護保険サービス事業所連絡協議会（室蘭市居宅介護支援事業所専門部会、居宅介護サービス事業所専門部会）、北海道介護福祉士会日胆支部

<担当幹事>

高嶺 克哉

<定例会のTake Home Message>

認知症フレンドシップクラブの活動から、認知症でも暮らせるまちとはどんなまちか、毎年大きな反響と広がりを見せている Run 伴についてなど、自分たちの地域で、認知症でも暮らせるまちづくりや認知症の人を応援するために、何ができるかなどを考えるきっかけになればと考える。

<タイムライン>

18:30 ～ 本日の趣旨説明

18:35 ～ 講師紹介

井出 訓氏 放送大学教養学部 教授

NPO法人認知症フレンドシップクラブ 理事長

18:40 ～ 講演

20:20 ～ 質疑応答

20:30 ～ 閉会

<担当幹事からの総括>

西胆振でも、少しずつではあるが、地域で認知症の人を支える仕組みづくりに対する取り組みが見られるようになってきている。しかし、地域で暮らす市民へはその活動が周知されず潜在化し孤立状態となっている認知症当事者やその家族がいる。そのような状態は、どこの地域でも挙がる大きな課題となっており、認知症なっても暮らせるまちづくは医療、介護、福祉の専門職だけでは作り上げることは困難である。

井出先生はこのような課題を解決する仕組みの一つとして、長く認知症フレンドシップクラブの活動を実践、5年前から啓蒙活動の一環で Run 伴を実施した。このような先駆的な取り組みを通して、自分たちの地域では何ができるだろうと考える機会として、今回の講演会テーマを設定した。

アンケートの結果にもあるように、一定の評価はできていると考えているが、講演を聞き、刺激を受け、実際にアクションが起きるかは不明である。連絡会の今後の活動としても、会の目的でもあるように、多職種が連携し、地域住民を巻き込

んでいくことが必要ではないだろうか。認知症フレンドシップクラブのような、地域住民に自覚を促すような取り組みも今後は必要かも？しれないと感じた。

第37回 西いぶり在宅ケア連絡会

テーマ

「援助職のためのメンタルヘルス」 ～燃え尽きちゃっていませんか？～

日 時:8月17日(月) 18:30～20:30

受 付:18:00～

会 場:むろらん広域センタービル 3階A・B会議室
室蘭市海岸町1丁目4番1号 0143-24-9834

参加費:500円(軽食代含む)

<内 容>

18:30～ 連絡会説明・参加者自己紹介

18:40～ 講義『援助職のためのメンタルヘルス』
三愛病院 竹内PSW

19:15～ グループワーク

20:15～ 共有・まとめ、アンケート・意見回収

20:30 閉会



今月のポイント！

ストレスフルだと言われる対人援助職の現場、その中で働くための「ひとりひとりの考え方を少し変えてみると楽になる」「職場環境が変われば楽になる」などの話題を提供し、新人さんにもベテランさんにも共有できる内容にしたいと思っています。日々支援している対象者も「ひと」ですが、その支援者自身も「ひと」であり、悩みながら、時には失敗して成長します。うまく自分の感情につきあえるように少し意識を変えてみながら、対人援助職として日々モチベーションを高く保って働くためのヒント、を一緒に考えていきましょう。

【後援団体】

室蘭市医師会、胆振西部医師会、室蘭歯科医師会、北海道看護協会室蘭支部、北海道薬剤師会室蘭支部、西胆振訪問看護者連絡会、北海道栄養士会室蘭支部、北海道歯科衛生士会室蘭支部、室蘭市地域包括支援センター、北海道医療ソーシャルワーカー協会日胆支部、室蘭・登別訪問リハビリテーション連絡会、登別市地域包括支援センター、のぼりべつケアマネ連絡会、伊達市地域包括支援センター、伊達市介護支援専門員連絡会、室蘭市介護保険サービス事業所連絡協議会（室蘭市居宅介護支援事業所専門部会、居宅介護サービス事業所専門部会）、北海道介護福祉士会日胆支部

<担当幹事>

竹内 亮平

<定例会のTake Home Message>

「楽しく、モチベーションを高く働くための方法を知ってもらう」

<タイムライン>

18：30～ 参加者自己紹介

18：40～ 講義 三愛病院 PSW 竹内 『援助職のためのメンタルヘルス』

19：15～ グループワーク

20：15～ 共有・まとめ、アンケート・意見回収

20：30 閉会

<担当幹事からの総括>

通常の定例会では、患者・利用者などの対象者理解や「連携」という視点で学習していくことが多いが、今回はメンタルヘルスについて自分自身や自分の職場について考える機会を提供したかったことと、対人援助職であるからこそ起こり得る燃え尽き症候群（バーンアウト）について、改めて考える場になればと思い、議題提起とグループワークを行った。

ストレスフルと言われる対人援助職の職場の状況を改めて感じてみる、自分自身の考え方を少し変えてみる、職場環境について考えることは上司の仕事のひとつでもある、など、対処方法や働きやすい職場について色々と話し合う機会になったと感じている。特に、「相談しやすい職場環境を整えること」「話しやすい雰囲気づくりが大切であること」について共有でき、ベテランさんをはじめ、それぞれのスタッフも日頃より意識する必要があることを感じて頂けたと思っている。

第38回 西いぶり在宅ケア連絡会

テーマ

「大丈夫！大丈夫？地域包括ケア」

日 時：9月28日（月） 18:30～20:30

受 付：18:00～

会 場：むろらん広域センタービル 3階A・B会議室
室蘭市海岸町1丁目4番1号 0143-24-9834

参加費：500円（軽食代含む）

＜内 容＞

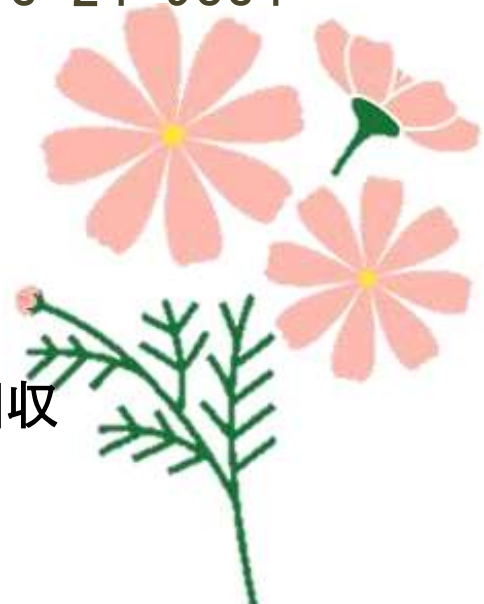
18:30～ 連絡会説明・参加者自己紹介

18:45～ 事例・情報共有

19:20～ グループワーク

20:10～ 共有・まとめ、アンケート・意見回収

20:30 閉会



今月のポイント！

平成27年4月に走り出した地域包括ケアシステム、その実態はどうなっているのでしょうか？半年を迎えた現在の状況について、地域包括支援センターからも情報提供をしていただき、地域包括ケアによって課題解決に繋がった、または機能しなかった、などの話題から、多職種が地域包括ケアシステムの今後を考える機会にしたい

【後援団体】

室蘭市医師会、胆振西部医師会、室蘭歯科医師会、北海道看護協会室蘭支部、北海道薬剤師会室蘭支部、西胆振訪問看護師連絡会、北海道栄養士会室蘭支部、北海道歯科衛生士会室蘭支部、室蘭市地域包括支援センター、北海道社会福祉士会日胆地区支部、北海道医療ソーシャルワーカー協会日胆支部、室蘭・登別訪問リハビリテーション連絡会、登別市地域包括支援センター、のぼりべつケアマネ連絡会、伊達市地域包括支援センター、伊達市介護支援専門員連絡会、室蘭市介護保険サービス事業所連絡協議会（室蘭市居宅介護支援事業所専門部会、居宅介護サービス事業所専門部会）、北海道介護福祉士会日胆支部

<担当幹事>

高嶋 克哉

<定例会のTake Home Message>

「振り返って気づきを持って帰れる。」

- ・地域包括ケアの現状を知り、多職種がそれぞれの視点から、課題を見つけることができる。
- ・課題を解決するための多職種協働とは何かを考える。
- ・住み慣れた地域で暮らすことができる地域を作るために必要な事、できると
- ・2025年を想像し、この地域を創造することができる。

<タイムライン>

18:30～ 参加者自己紹介

18:45～ 情報共有

19:20～ グループワーク

20:10～ 共有・まとめ、アンケート・意見回収

20:30 閉会

<担当幹事からの総括>

地域包括支援センターが何をするところか、どんな取り組みをしているかを知らない人もいて、地域包括ケアシステムが、どのようなシステムとしてこれからの介護保険制度の中で位置づけられているのか。具体的な取り組みや誰がどのように関わるのかが、まだまだ知られていないのが現状であった。地域包括ケアで進めている具体的な取り組みが紹介されたことで、地域包括ケアがどのような取り組みをしているのかを知るきっかけになったと考えている。

職種によっては、殆どわからない人もいたようだが、本例会ではそのような専門職にも「知ってもらい」「考える」機会としたかったので、よかったのではないだろうか。地域の課題や一人ひとりが地域や自宅で過ごしていくための、多職種協働を考える機会となったと思う。

2025年を想像し、今から何ができるのかをそれぞれが考え行動するための機会にしたかったが、その点については深めることができなかったと感じてい

る。前記のように、まだまだ周知されていない、認知されていないなど地域包括ケアに課題があるというより、それ以前のところに課題があると理解できる。

地域包括支援センターによって、または町内会単位での地域格差もある。それぞれの地域包括支援センターが中心となり、取り組んではいるが、高齢者に関わる専門職を含め、地域住民も受け身となっているのではないだろうか。

今回の定例会では、事例ベースではなく、テーマを広くすることで、それぞれが考える機会としたかったが、まだまだ事例ベースで地域包括ケアシステムを考えたほうが、理解が深まったのではないかと評価している。しかし、多職種が地域包括ケアシステムについて、ディスカッションすることで、わからなかったことが少しでも理解につながったのではないだろうか。

第39回 西いぶり在宅ケア連絡会

テーマ

「みんなで創ろう、地域包括ケア！ ～地域包括ケアのために何が必要か？～」

日 時：10月19日（月） 18:30～20:30

受 付：18:00～

会 場：だて歴史の杜カルチャーセンター 2F 視聴覚室

伊達市松ヶ枝町34-1 電話：0142-22-1515

参加費：500円（軽食代含む）

<内 容>

18:30～ 連絡会説明・参加者自己紹介

18:50～ 事例・課題情報共有

（洞爺温泉病院 ホスピス長 岡本 拓也 医師
訪問看護ステーション聖ヶ丘 所長 中野 厚子 看護師）

19:20～ 質疑応答

19:30～ グループワーク

20:00～ 共有・まとめ、アンケート・意見回収

20:30 閉会



今月のポイント！

最期まで住みたい場所で安心して生活できる地域にしたい。その実現のために、それぞれの立場で何ができるか、この地域に何が必要なのか。また、医療・介護・福祉に関わる私たちは、どう繋がり、どう行動すれば、そこに近づけるか？地域での事例を通じて考えていきたいと思います。

【後援団体】

室蘭市医師会、胆振西部医師会、室蘭歯科医師会、北海道看護協会室蘭支部、北海道薬剤師会室蘭支部、西胆振訪問看護師連絡会、北海道栄養士会室蘭支部、北海道歯科衛生士会室蘭支部、室蘭市地域包括支援センター、北海道社会福祉士会日胆地区支部、北海道医療ソーシャルワーカー協会日胆支部、室蘭・登別訪問リハビリテーション連絡会、登別市地域包括支援センター、のぼりべつケアマネ連絡会、伊達市地域包括支援センター、伊達市介護支援専門員連絡会、室蘭市介護保険サービス事業所連絡協議会（室蘭市居宅介護支援事業所専門部会、居宅介護サービス事業所専門部会）、北海道介護福祉士会日胆支部

<担当幹事>

大杉 直美

<定例会のTake Home Message>

最期まで住みたい場所で安心して生活できる地域にしたい。その実現のために、「それぞれの立場で何ができるか」、「この地域に何が必要なのか」を考える。医療・介護・福祉に関わる私たちは、どう繋がり、どう行動すれば、そこに近づけるか？

<タイムライン>

- 18：30～ 連絡会説明
- 18：35～ 参加者自己紹介
- 18：50～ 岡本先生事例～課題について
- 19：00～ 訪問看護の立場から
- 19：20～ 質疑応答
- 19：30～ SGD
- 20：00～ 各グループからの発表と質疑応答&ディスカッション
- 20：30 アンケート記入、終了

<担当幹事からの総括>

今回の事例では、母親を在宅で看取り、今回父親を自宅で看取るために半年間の介護休暇を取った長女と関西から幼児を連れて手伝いに来た次女が、介護に当たっている状況のケースについてグループワークを行い、この地域の地域包括ケアを推進していくための問題点について検討した。地域のために何が必要か？ ①核となるヒト ②行政 ③医師会の協力など、施設での看取りも含め、こんな資源があれば、家で、施設で看取れたのに、という「ヒト・システム」について話し合い、経験した事例でこんなことができればよかったのに、という話がシェアできる場を目指した。今までこの地域では、入院・入所を「仕方ない」としてきたが、仕方なくない地域になれることを目指せるようなテーマで話して頂いた。

やはり、地域によって看取りや終末期の過ごし方には違いがでてくる。地域のリソースによっては、十分な療養生活を送ることは難しく、看取る医療側の

体制や訪問看護の入れるエリアも限定されている。このような中で、行政に現状の理解と支援を今後充実させて頂ける対応も検討してほしい。しかし、一番は自分たちが声を上げていくことが望まれる。

各々の職場で、何が出来るかを考え、役割を持って協働していくこと、連携の意識の持ち方を考えて実践していくことが大切である。

西いぶり

参加費：無料
どなたでも参加OKです！

在宅ケアフェスティバル

【企画趣旨】

私たちは学びながら地域の在宅ケアを推進していくことを目的とした団体です。この度、在宅ケアについて一般市民の皆様に広く知って頂く機会として、『楽しみながら』『誰でも』『気軽に参加できる』、西いぶり在宅ケアフェスティバルを企画しました。皆さんとともに知識を学び、理解を広めたいと考えております。どうぞお気軽にご参加ください！

健康チェックが
受けられます！

介護食の試食、
吞み込み、
お口の衛生等の
アドバイス！

認知症予防、
体力測定、
介護機器等を
ご紹介！

日 時

平成 27 年 11 月 15 日 (日)
10:00～15:00 (事前申し込み不要)

場 所

MORUE (モルエ) 中島
室蘭市中島町 1-4-1

主 催

西胆振地域在宅医療連携推進協議会
(西いぶり在宅ケア連絡会)

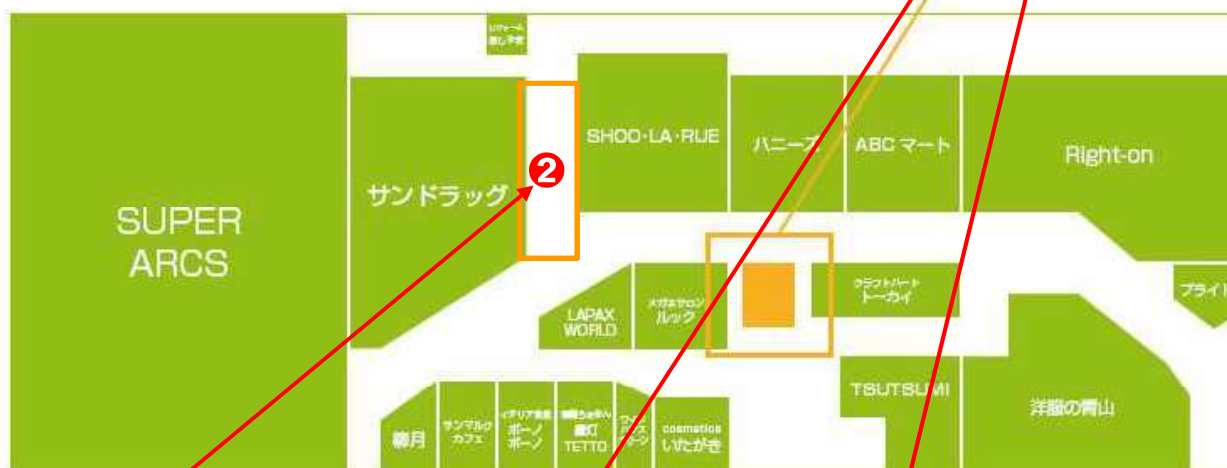
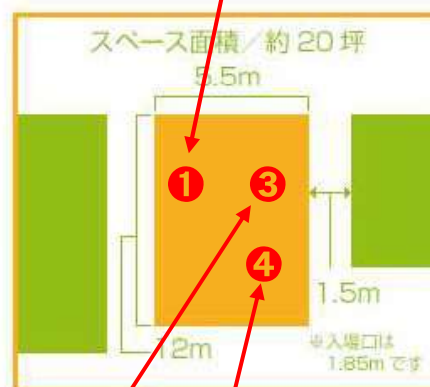
お問合せ先

西いぶり在宅ケア連絡会事務局 (本輪西ファミリークリニック内)
0143-55-1212 (担当・中田)

ソーシャルワーカー
が相談対応
致します！



MORUE A棟 北側入口メイン通路内



- #### ④医療福祉・介護の相談コーナー

**④. 困ったらまずは相談！医療福祉・介護の相談コーナー
ソーシャルワーカーが相談対応致します。**

平成 27 年 12 月 15 日

西いぶり在宅ケア連絡会 西いぶり在宅ケアフェスティバル

実施報告書

【日時】 平成 27 年 11 月 15 日（日）10:00～15:00

【場所】 モルエ中島 1F イベントスペース

【参加スタッフ】

介護予防ブース 12 名、食事と健康ブース 10 名、健康チェックコーナー 4 名、なんでも相談ブース 6 名

【経過】

<各ブースの内容>

- ・介護予防ブース・・・無料パンフレット設置、認知症検査（長谷川式簡易スケール）、体力測定、ベッド・車椅子等介護用品展示（マルベリー）
- ・食事と健康ブース・・・無料パンフレット設置、介護職の試食、歯科医師相談コーナー、歯ブラシフィッティング（歯ブラシソムリエ）、薬剤の相談コーナー
- ・健康チェックコーナー・・・訪問診療等のパネル展示、禁煙相談・呼気検査（一酸化炭素濃度検査）、看護師による相談コーナー
- ・なんでも相談コーナー・・・SW によるなんでも相談

※来客者が各ブースを円滑に行き来して頂けるように、チラシにスタンプ用のチェック欄を作成し、スタンプラリーを行った。

【参加者】 各ブースの合計（延べ人数）：326 名

3 ブースでスタンプを押し景品交換した人：97 名

【総括】

今年度は、これまでの市民フォーラムから志向を変えて「在宅ケアフェスティバル」という形式をとった。これまでのフォーラムでは、一般市民に分かりやすく在宅ケアの基礎知識を伝えることを目的に、各疾患のテーマから派生する内容を寸劇及び講演を組み合わせた形式で開催し、認知症などの病気の説明や介護保険の制度・サービス内容の説明など、具体的な情報提供を行っていた。このフェスティバルでは、今後も継続した在宅ケアの啓発活動を行うに当たり、予算等の運営面も考慮した上で、『誰でも』『気軽に参加できる』をコンセプトとし、在宅ケアにそこまで興味のない一般の方でも参加できる形にして開催した。

当日は、モルエ中島という商業施設で行ったということもあり、多くのお客さんに参加して頂くことができ、一定の成果を得たと感じている。各ブースにより企画案を持ち寄って頂いたことで、より一般の方にも興味を持ちやすく、工夫されたイベントとなったことが要因と思われる。

フォーラムとはまた違った視点からの啓蒙活動ではあるが、一般の方にも『在宅ケア』についての周知が行えたと思っている。

当日の写真



文責：市民フェスティバル班 担当 三愛病院 竹内亮平

第40回 西いぶり在宅ケア連絡会

テーマ

「あなたならどうする？助け愛たい困難事例」

日時:12月21日(月) 18:30~20:30

受付:18:00~

会場:むろらん広域センタービル 3階A・B会議室
室蘭市海岸町1丁目4番1号 0143-24-9834

参加費:500円(軽食代含む)

<内 容>

18:30~ 連絡会説明・参加者自己紹介

18:45~ 薬剤師ナウ~在宅における薬剤師の取り組み~

18:50~ 事例紹介①

19:00~ グループワーク・共有

19:35~ 事例紹介②

19:45~ グループワーク・共有

20:25~ まとめ、アンケート・意見回収

20:30 閉会



今月のポイント！

事例やディスカッションを通じて、自分たちの役割や出来る事を知り、
どのように多職種で連携していくと、より良いサービスを提供出来るのか
考えてみましょう！

【後援団体】

室蘭市医師会、胆振西部医師会、室蘭歯科医師会、北海道看護協会室蘭支部、北海道薬剤師会
室蘭支部、西胆振訪問看護師連絡会、北海道栄養士会室蘭支部、北海道歯科衛生士会室蘭支部、
室蘭市地域包括支援センター、北海道社会福祉士会日胆地区支部、北海道医療ソーシャルワーカー
協会日胆支部、室蘭・登別訪問リハビリテーション連絡会、登別市地域包括支援センター、のぼりべつ
ケアマネ連絡会、伊達市地域包括支援センター、伊達市介護支援専門員連絡会、室蘭市介護保険
サービス事業所連絡協議会（室蘭市居宅介護支援事業所専門部会、居宅介護サービス事業所専
門部会）、北海道介護福祉士会日胆支部

<担当幹事>

和田 賢

<定例会のTake Home Message>

- ・ 困難事例を通じて自分が出来る事を知り、専門職の関わり方について考えてもらう。
- ・ 他職種との連携は出来なかっただろうか？連携出来ていたらどうなっただろうか？を考え、ディスカッションを通じて自分たちの多職種連携における役割に気付いてもらう。

<タイムライン>

18：30～ 連絡会説明・参加者自己紹介
18：45～ 薬剤師ナウ～在宅における薬剤師の取り組み～
18：50～ 事例紹介①
19：00～ グループワーク・共有
19：35～ 事例紹介②
19：45～ グループワーク・共有
20：25～ まとめ、アンケート・共有
20：30 閉会

<担当幹事からの総括>

服薬を通じての多職種との連携についてディスカッションする事が出来たのではないかと感じている。事例を通じ、それぞれの職種での考え方の相違はあったが「服薬や日常生活が出来ておらず、この状態で生活が可能か？」という意見や「関わった人が集まって支援会議を行う必要性があったのではないか？」「連携して問題を認識し、何もできなくても方向性を出すことが望ましい。」という意見も出ており、ねらいに近い話が出来たと感じる。

今後も関係者全員での顔の見える関係性作りの継続をしていく事が必要であり、立場が違くと物の見方が違う為、それぞれの役割を理解してゆく為にも話し合いを重ねていく事が重要であると考えている。

第41回 西いぶり在宅ケア連絡会

講演会

「地域のチカラを生かすチームづくり」

日 時：平成28年1月18日（月） 18:30～20:30

受 付：18:00～

会 場：ホテルサンルート室蘭

室蘭市中島町2-28-6 ☎0143-43-2333

参加費：500円（軽食代含む）

主 催：西胆振地域在宅医療連携推進協議会
（西いぶり在宅ケア連絡会）

<内 容>

18:30～ 開会・連絡会説明

18:35～ 講師紹介

生涯医療クリニックさっぽろ

院長 土畠 智幸 先生

18:40～ 講演

20:20～ 質疑応答

20:30～ 閉会、アンケート回収



今月のポイント！

小児在宅医療に取り組んでいる「生涯クリニックさっぽろ」の土畠先生をお招きしての講演会です。地域で暮らす人々の環境は様々ですが、「自律」を目指し人々が健康になるために、コミュニティはいかにそれぞれが役割を持てるようになるか。医療・介護・福祉だけではないチーム力を環境に準じ、又は環境を変化させ、一人ひとりがそれぞれのチカラを引き出す視点を持つ事のお話です！

【後援団体】

室蘭市医師会、胆振西部医師会、室蘭歯科医師会、北海道看護協会室蘭支部、北海道薬剤師会室蘭支部、西胆振訪問看護師連絡会、北海道栄養士会室蘭支部、北海道歯科衛生士会室蘭支部、室蘭市地域包括支援センター、北海道社会福祉士会日胆地区支部、北海道医療ソーシャルワーカー協会日胆支部、室蘭・登別訪問リハビリテーション連絡会、登別市地域包括支援センター、のぼりべつケアマネ連絡会、伊達市地域包括支援センター、伊達市介護支援専門員連絡会、室蘭市介護保険サービス事業所連絡協議会（室蘭市居宅介護支援事業所専門部会、居宅介護サービス事業所専門部会）、北海道介護福祉士会日胆支部

＜担当幹事＞

大杉 直美

＜タイムライン＞

18：30～ 開会・連絡会説明

18：35～ 講師紹介 生涯医療クリニックさつぽろ 院長 土畠 智幸 先生

18：40～ 講演

20：20～ 質疑応答

20：30 閉会、アンケート回収

＜担当幹事からの総括＞

気づき、ヒント、学びとなった点

- ・いま、「目の前にいる患者・家族」に対するサービス提供に加えて「目の前にいない患者・家族」や「地域」のことも考える。
- ・すべての職員が主体性・専門性を発揮しやすい組織形態をつくる
- ・ときどき、大きな夢(ビジョン)を描く

まとめ

組織は変えていこうという危機意識がないと変えることはできない。いつまでも安心ではなく、いつまでも社会情勢は変わらずにいるわけでもない。自分が組織の一員として、腐敗する前に、自ら課題を持って、ともに考えていく柔軟な姿勢が必要であると感じた。

組織はピラミッド型が多く、働いている者の意見はほぼ届かないことが多い。これからの組織はこの状況では大きな夢は果たせない。組織は変わるべきである。

社会の流れや地域の実情に合わせ、試行錯誤を繰り返し、ニーズを確認できるスタッフへの仕掛けが必要である。自ら考える組織は、自ら課題を抽出できることが求められる。このために、質的研究の実施を実践し、課題に視点が行くように方向性を向けることが主体性や専門性を高めると感じた。サーバントリーダーシップは、今後求められる組織の在り方である。環境を整え、自分のビジョンを達成できるシステムづくりが必要であると痛切に思う。

組織はスタッフを縦割りで仕事を向けるのではなく、仕事に対する思いや自ら考えさせ、考えたことを共に考え、共に歩んでいく姿勢が必要と考える。最後の総括は自らの組織にも投げかけていきたい。

第42回 西いぶり在宅ケア連絡会

テーマ

「コトバノチカラ～連携するための声ってなんだろう」

日 時：平成28年2月15日（月） 18:30～20:30

受 付：18:00～（事前申込不要）

会 場：むろらん広域センタービル 3階A・B会議室

室蘭市海岸町1丁目4番1号 0143-24-9834

参加費：500円（軽食代含む）

<内 容>

18:30～ 開会・連絡会説明・自己紹介

18:45～ 担当幹事 小話

本輪西ファミリークリニック 院長代行 佐藤弘太郎 先生

19:00～ ロールプレイ

19:20～ グループディスカッション

20:10 ～ グループ発表

20:25～ まとめ

20:30～ 閉会、アンケート回収



今月のポイント！

今まで開催してきた定例会のアンケート結果等を踏まえて
企画しました。意味深なテーマの詳細は裏面をチェック！

【後援団体】

室蘭市医師会、胆振西部医師会、室蘭歯科医師会、北海道看護協会室蘭支部、北海道薬剤師会室蘭支部、西胆振訪問看護者連絡会、北海道栄養士会室蘭支部、北海道歯科衛生士会室蘭支部、室蘭市地域包括支援センター、北海道社会福祉士会日胆地区支部、北海道医療ソーシャルワーカー協会日胆支部、室蘭・登別訪問リハビリテーション連絡会、登別市地域包括支援センター、のぼりべつケアマネ連絡会、伊達市地域包括支援センター、伊達市介護支援専門員連絡会、室蘭市介護保険サービス事業所連絡協議会（室蘭市居宅介護支援事業所専門部会、居宅介護サービス事業所専門部会）、北海道介護福祉士会日胆支部

コトバノチカラ

～連携するための声ってなんだろう

今までの定例会のアンケートを検討すると……

- ・利用者、及び他職種とのかかわりはコミュニケーション能力がポイント！
- ・他職種との話の中で、理解できない会話がそのまま放置されることがある…
- ・表現をうまく行わないと正確に伝わらない…
- ・サービス調整会議等できちんとした意見が伝わらない…
- ・個々人によって表現能力に差を感じる
- ・医療職と話がうまくできない…

等々(まだまだありますが)上記のような感想や想いが多く伝わってきます。

西いぶり在宅ケア連絡会では2月定例会テーマを考え、今までの積み重ねから他職種連携を真に行うためには「言葉」について考えてみようという結論に達しました。

具体的なやり取りの中で、自分の言葉で話しているか、もしかしたら想いとは別に、現状を話すのみに止まっていないか、もしかしたら想いを発言することで、大きなアクションが起こるかもしれない。言われて嬉しい言葉、やる気になる言葉を発しているだろうか、無意識の中で逆の言葉を利用者や仲間に話していないだろうか。相手と同じ目線に立って話しているか。

そのような話し合いの中から、利用者とかかわり、他職種連携でのコミュニケーションのコツ、言葉で伝える想いの共有を、どのようにしていくか、答えはなかなか見つからないと思いますが、参加者が気づきかけの定例会にして行こうと考えています。

＜担当幹事＞

釣賀 和也

＜定例会のTake Home Message＞

「連携におけるコトバのチカラを改めて考え直す」

＜タイムライン＞

- 18：30～ 開会・連絡会説明・自己紹介
- 18：45～ 担当幹事 小話
本輪西ファミリークリニック 院長代行 佐藤 弘太郎 先生
- 19：00～ ロールプレイ
- 19：20～ グループディスカッション
- 20：10～ グループ発表
- 20：25～ まとめ
- 20：30 閉会、アンケート回収

＜担当幹事からの総括＞

地域プロジェクト班は、今までの定例会のアンケート結果から、多職種連携を真に進めるためには、「言葉」が大事では、との結論に達し、言葉をキーにした定例会ができないかを検討してきました。

今回の定例会では、ロールプレイ、ディスカッション、コツの共有、失敗例、成功例など、班単位や会場全体で話す時間を多くすることを考えて、より言葉を使うことを重点に置き、参加型の定例会にしていくことを目標にしました。

終了後の各班からの報告によると、それぞれの参加者がそれぞれの場面で悩んでいること、異なる職種間ではまだまだ話し合う土壌ができていないこと、より言葉を大事に仕事していること等々、様々な言葉に対する熱い思いが伝わってきました。言葉が重要と言うことはやはり共通の認識だったのだと確信できました。

また、今後についても各班の意見を見ると、言葉の使い方、聞き方、表情、トーン、非言語的表現等々、明日につながるヒントが沢山出されており、非常に勉強となり、問題提起も出来た定例会になったのではないかと感じています。

第43回 西いぶり在宅ケア連絡会

講演会

「地域包括ケアと住まい、シニアの社会参加」

ご講演内容(予定)

地域包括ケアが実は住まい包括ケアになってきていること、今後増えていくであろう在宅(住まい含む)看取りまでの問題にどう対応していくのか、また、元気高齢者の社会参加など

日時:3月25日(金) 18:30~20:30

受付:18:00~

会場:ホテルサンルート室蘭 室蘭市中島町2-28-6

☎0143-43-2333

参加費:500円(軽食代含む)

<講師>

奥田 龍人 氏

NPO法人シーズネット理事長



- ・1952年生 同志社大学法学部卒業
- ・道職員として道立障害者施設、児童相談所、医療法人で在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターなどに勤務
- ・元北海道社会福祉士会会長、元札幌市介護支援専門員連絡協議会会長
- ・平成25年10月にNPO法人シーズネット理事長に就任

【後援団体】

室蘭市医師会、胆振西部医師会、室蘭歯科医師会、北海道看護協会室蘭支部、北海道薬剤師会室蘭支部、西胆振訪問看護師連絡会、北海道栄養士会室蘭支部、北海道歯科衛生士会室蘭支部、室蘭市地域包括支援センター、北海道医療ソーシャルワーカー協会日胆支部、室蘭・登別訪問リハビリテーション連絡会、登別市地域包括支援センター、のぼりべつケアマネ連絡会、伊達市地域包括支援センター、伊達市介護支援専門員連絡会、室蘭市介護保険サービス事業所連絡協議会（室蘭市居宅介護支援事業所専門部会、居宅介護サービス事業所専門部会）、北海道介護福祉士会日胆支部



<担当幹事>

大杉 直美

<定例会のTake Home Message>

地域包括ケアが住まい包括ケアになって来ている。今後増えていく住宅看取りにどう対応していくのか。元気高齢者の社会参加をどう考えるか。

<タイムライン>

18：30～ 開会・連絡会説明

18：35～ 講師紹介 NPO 法人シーズネット 理事長 奥田 龍人 先生

18：40～ 講演

20：20～ 質疑応答

20：30 閉会、アンケート回収

<担当幹事からの総括>

2025 年問題を抱え、介護事業は多様な展開を見せていくことになって行くだろう。これからは少子超高齢化による核家族化や独居の増加が見込まれるが、この現状を救う手だては、地域作りであり、自助・互助である。しかし、この地域づくりは各バックアップシステムが機能していないと構築していくことは困難である。高齢者一人一人が充実して生きていくための役割作りを目指す地域づくり、ひとり死であっても、自助・互助が充実していることによる地域での見守り体制の構築が大切になってくる。

シーズネットの取り組みとして、役割作り・居場所作りを展開していつているが、各地、地域の課題を見つめ、ニーズに合った事業の展開や町づくりを目指し、当事者が何を求めているかを当事者目線で皆が興味を持ち、考えていく必要があると感じた。